

議会報告会実施報告書

開催日時	令和2年11月20日(金) 午前10:00~午前11:40	開催会場	可児市議会 議場
出席議員	全議員		
参加者数	14名(可児市自治連絡協議会)		
実施内容	コロナ禍における地域活動について		
質疑および 主な意見等	<p><コロナ差別を許さない緊急メッセージについて></p> <p>質問1: 緊急メッセージでは誹謗中傷を行った方や受けた方への対応が見えてこない。具体的な対応策が必要ではないか。</p> <p>回答1: 中傷などをSNS等で発信、拡大しないというメッセージを出した。実際被害にあわれた方の心のケアや具体的なサポート等について、市民にどのようにメッセージが送れるか検討する必要がある。</p> <p><新型コロナウイルス感染症に関する情報発信></p> <p>質問2: 感染の発生場所(地域)を明らかにするなど、情報の提供内容をもう少し詳しくできないか。</p> <p>回答2: 市は県からの情報しか持ち合わせておらず、個人情報でもあるので難しい面はあるが、市に対しては、市民(高齢者等)の不安を少しでも取り除くことができるような情報の提供を求めている。</p> <p><外国籍市民へのコロナ対策指導></p> <p>質問3: 外国籍市民については、職域、学校、国籍別など、生活習慣に根ざした徹底的な指導対策により感染を抑えることができると考えるが。</p> <p>回答3: 注意喚起等については、基本的には日本人と同様の対応をしていると思われるが、議会としても行政に対し、意見のような対応ができないか働きかけていく必要はある。外国籍の方だけ別扱いすることで差別につながることもあり、慎重な対応が必要。団体などのリーダーを通じて情報伝達するなどの取り組みも市は行っている。</p> <p>質問4: 外国籍市民への情報伝達には工夫が必要。また、情報の絶対量が不足している。</p> <p>回答4: 学校からの情報も含め、外国籍市民への情報伝達は十分とはいきれない。今後の市政発展には外国籍市民との連携が必要不可欠である。</p> <p><消防団員不足></p> <p>質問5: 消防団員をいかに確保していくか考えてほしい。</p> <p>回答5: 自治会役員が苦勞されているのは承知している。団員になることで、仕事も年齢も違う方々の新たなつながりができるという一面もある。</p>		

<消防団員不足> (つづき)

質問6: 地域によっては若い人がいない。定数確保は難しい。

回答6: 地域で実情が違う。定数の見直しが必要になってきている。普段から若い世代が参加できるような活動が必要。自衛消防やOBも巻き込めるような制度改革も必要と考える。

質問7: 団員の所属する企業への支援制度や夜間だけでも出動できるような施策の検討を。

回答7: 消防団員所属企業には、県の制度として事業税の減免制度がある。市としての支援制度等については、今後の検討課題としたい。

<コロナ禍における避難所>

質問8: コロナ禍において避難所運営が難しくなっている。減災を進め、自宅等での避難を推進すべきと考えるが。

回答8: コロナ禍では現施設のみでは不足、自宅避難や民間施設の活用に舵を切れるよう検討が必要である。他自治体の事例についても情報収集していきたい。

<ごみ集積場所>

質問9: 自治会が管理するごみ集積場所利用のマナーについて、自治会未加入者や外国籍市民への啓発を。

回答9: ルール、マナーの更なる啓発強化に努めていきたい。

<その他意見>

・太陽光発電について、地域住民だけでなく、市議会、行政が一緒になって意見交換、議論をしていく必要がある。

・兼山小学校通学路に枝が折れている等の危険箇所がある。危機管理であるので議会が主導権を持って対応してほしい。

・議員は地域の自治会と積極的に関わり、指導や意見聴取、市への働きかけ等を頻繁、活発にやっていただきたい。

令和2年12月4日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

広聴部会 副部会長 天羽良明